



新たな未来に向け

前橋積善会理事長 栗木信昌

平素より、関係各位の方々には、大変お世話様になつてゐることを、紙面をお借りして御礼申し上げます

さて、戊歳から亥歳へとなり、元号も令和と改元され、公益社団法人前橋積善会も本年創立百三十九年を迎え、新たな未来に向け事業の計画を進めているところで御座います。

亥歳とは戌年に平らになった所に新たに一つ一つ作り始める歳ということだそうです。

千支の教えの通り未来
に向け確実に歩んでいき
たいと考えます。

さて、今から百三十九年前一八八〇年に、前橋積善会は創立されていますが、その一年後の一八八一年に群馬県庁が、前橋に移されました。移

すために高額の資金を提
供した前橋二十五人衆は
あまりにも有名ですが、
一夜にして三万両とい
う、大変な額の寄付を提
供することにしたこの

二十五人の方々の思いは計り知れませんが、その二十五人の中に当初積善会を設立し運営した役員が五人入っています。

明治四十年の新聞によりますと、当時彼等は県庁を前橋に移す積極的政策、「今で言うハード」、前橋町民の生活を保障しようとする消極的政策、「今で言うソフト」の二本立ての政策を打ち立てた様です。

その消極的政策が前橋積善会の設立でした。當時まだまだ安定しない自治行政を補完するべく遠藤海象や増田嘿堂、下村善太郎、木村農夫吉、須

田伝吉、竹内勝蔵等を中心にして、社会保障の充実のため、生活支援費の提供、施療券、施薬券、無料診療券等の提供、そして診療所の運営へと事業が展開して行くのですが、慈悲善隣、弱者救済の理念のもと歴代の役員会員の方々は、自治体としての脆弱な所を補っていた訳です。

当時の役員の中から初
代の前橋市長の下村善太
郎を始め二代市長弥城友
次郎、五代市長江原桂三
郎、七代市長木村二郎、
八代市長竹内勝蔵、十一
代市長堀康雄と五人の市
長が生まれています。県
庁を移すだけでなく、前
橋町民市民に如何に社会
福祉を提供し充実させて
行くかと言うことを、積
善会の理念や当時の役員
の活動の中から読み取る

ことができます。

その精神は今でも前橋積善会に、また、前橋積善会を母体に設立された前橋あそか会の両会に脈々と繋がっていますし、その理念に基づく新たな事業が、前橋あそか会の、きらめきの郷まちづくり事業です。

既に障害者支援施設ルンビニー園の増改築もその一環として始まっていますが、昨年十二月十七日には旧農業試験場跡地の売買契約を大澤県知事と結びましたので、この

会報が出る頃には、その跡地に建っている建物の解体が終了し、広大な敷地が広がっていることと
思います。

利用者だけでなく、地域や広く前橋市民の方々が集い、お互いが理解し向上しあい、人生を集い

の中から楽しんで頂く、
当に地域と一体となる、
誰しものが生涯活躍できる
場所にしていきたいと、
切に思っていますし、積
善会も、その計画の一端
を担えればと考えていま
す。

そもそも、積善会とあ
 そか会は、兄弟法人です
 し、お互いの理念も全く
 同じです。

支援する対象の方々が違いますが、補完し合う事も多いに出来ます。

これからは、両会そのものも支えあいながら、利用者様の最善の利益になる為に精進努力して行くべきであると考えます、

無知や無関心、偏見のない相互理解の場所としたいと考えています。

どうぞ、引き続き益々の御指導御法愛の程よろしくお願い申し上げます。